

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 124

江戸川区立第六葛西小学校

| 「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差 | | | | 「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差 | | | | | | | | |
|--------------------------|------|----|-----|----------------------|------|------|------|----|------|------|------|------|
| 学年 | 第6学年 | | | 学年 | 第3学年 | | 第4学年 | | 第5学年 | | 第6学年 | |
| 年度 | 国語 | 算数 | 合計 | 年度 | 国語 | 算数 | 国語 | 算数 | 国語 | 算数 | 国語 | 算数 |
| 令和12年度の目標 | | | | 令和12年度の目標 | | | | | | | | |
| 令和11年度の目標 | | | | 令和11年度の目標 | | | | | | | | |
| 令和10年度の目標 | | | | 令和10年度の目標 | | | | | | | | |
| 令和9年度の目標 | | | | 令和9年度の目標 | | | | | | | | |
| 令和8年度の目標 | 0 | -2 | -2 | 令和8年度の目標 | 0 | -1.5 | +2 | +1 | -0.5 | +3.5 | -0.4 | -1 |
| 令和7年度の結果 | -3 | -4 | -7 | 令和7年度の結果 | -0.5 | -2.3 | +1.5 | 0 | -1.9 | -5.0 | -1.9 | -1.4 |
| 令和6年度の結果 | -1 | -4 | -5 | 令和6年度の結果 | -1 | -4.3 | +0.6 | -1 | -0.7 | +3.7 | -0.4 | -1.5 |
| 令和5年度の結果 | -8 | -4 | -12 | 令和5年度の結果 | | | | | | | | |

| 年度 | 令和7年度 成果と課題 | | | 令和8年度 目標 | | | | 令和8年度 目標達成に向けた取組 | | | |
|------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 内容 | | | | | | | | | | | |
| 学校全体 | <p>【成果】 ○算数科では、具体物や図、数、式、表、グラフ相互の関連を回る機会を設けたことで、測定やデータの活用に関する内容の理解を高めることができた。 【課題】 ○国語科の知識及び技能の習得が不十分であった。算数科では、記述式の問題に課題が見られた。 ○C・D層の割合が多い。</p> | | | <p>○全学年がスタンダードに基づいた授業を実践する。 ○語句の量を増やし、話や文章の中で使うこととともに、語彙を豊かにすることができるようになる。 ○文章を読んで理解したことに基いて、感想をもったり、自分の考えをまとめたりできるようにする。 ○各学年の応じた計算ができるようになる。</p> | | | | <p>○語句を系統的に学ぶ ○よむYOMUワークシートを活用し、文章を読んだ感想や自分の意見を書く機会を設ける。 ○江戸川っ子study week!の期間以外でもドリルパークを使い繰り返し学習できるようにする。 ○他教科との関連を積極的に回り、指導の効果を高める。</p> | | | |
| 第1学年 | <p>【成果】 ○国語では、平行読書や読み聞かせを繰り返し行うことで4月に比べて読む力が身についた。 ○算数では、ブロックやおはじきなどの具体物を使ったことで簡単なたし算・ひき算ができるようになった。 ○家庭学習の習慣が身につく。正答率が高まり、学習への意欲も高くなった。 【課題】 ○自分の気持ちを上手に表現できない児童が2割程度いる。 ○国語では、カタカナを揃えない児童が2割程度いる。 ○算数では、自分の考えを簡単な図や図で表現できない児童が2割程度いる。</p> | | | <p>○自分の気持ちを上手に表現して伝えられるようになる。 ○国語では、全児童がカタカナを書くことができるようになる。 ○算数では、自分の考えを簡単な図や図で表現できるようにする。</p> | | | | <p>○意図的に友達とコミュニケーションをする機会を日常生活や授業に取り入れる。 ○カタカナ言葉を集めたり見つけたりする授業を繰り返し行う。宿題で、月に2回程度カタカナのプリントを出す。 ○具体物の操作を行う機会を増やす。自分の考えを表す時間や伝え合う時間を確保する。</p> | | | |
| 第2学年 | <p>【成果】 ○国語は、文章の内容を正しく捉え、自分の考えや感じたことを短く表現する力が育ってきた。 ○新出漢字に関心をもち、正しく書くことと姿勢が見られるようになってきた。 ○算数は、繰り上がり、繰り下がりのある加法減法の手順を理解し、基本的な計算の定着が進んできた。 【課題】 ○国語は、長文の内容を捉え、要点を整理して説明する力の育成が必要である。 ○算数は、九九の確実な定着に加え、長い問題文の内容を正確に読み取り、立式につなげる力に課題が見られる。</p> | | | <p>○国語は、漢字を正確に用いると共に、文章の要点を捉え、理由を根拠として表現する力を高める。 ○算数は、基本的な計算技能と九九の確実な定着を図ると共に、問題文から根拠をもち立立てる力を育成する。</p> | | | | <p>○漢字は、既習漢字を繰り返し活用する学習を行い、自己確認を通して書きの定着を図る。 ○国語は、長文を段落ごとに要約し、理由を書く活動を継続することで表現力を高める。 ○算数の問題文を途中式やまとまりで置き換えて立式し、式を表す力を育成する。 ○計算と九九の反復練習を継続し、基礎的な技能の定着を図る。</p> | | | |
| 第3学年 | <p>【成果】 ○江戸川区学力調査の結果から、算数【測定】の正答率が全国平均よりも上回った。少人数指導の中で、実物操作を行う算数的活動を体験させたことが効果的であったと考えられる。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、D層の児童を少しでも学習を見付けさせるために、算数科では、今後も少人数展開により、到達度別の学習を今後もすすめ、理解度の向上をはかる。 ○知識・技能が低いため、基礎の定着を繰り返しはかる必要がある。</p> | | | <p>○算数では、実体験を通して基礎・基本の定着を図る。 ○算数は、基本的な計算技能の定着と、正しく問題文を読み取る力をつける。 ○国語では、話す力の育成を目指す。</p> | | | | <p>○算数では、少人数指導の中で算数的活動を積極的に取り入れ、学習内容と体験を結び付けた学習活動を行う。 ○算数では、既習の計算の振り返りに取り組んだり、国語科とも連携して問題文を正しく読み取れるようにする。 ○国語では、学級活動でのスピーチ等を日常化し、話す力の育成に取り組む。</p> | | | |
| 第4学年 | <p>【成果】 ○国語科では説明文や物語文の読み取りに関して、区や全国の平均を大きく上回った。 ○算数科では表やグラフの特徴単元について、区や全国の平均を上回った。 【課題】 ○国語科では、漢字の読み書きや、読み取った情報をもとに考え、判断し、表現する力に課題が見られる。 ○算数科では、整数の乗法や除法の意味についての理解、筆算の仕方の理解について課題が見られる。</p> | | | <p>○基礎的な漢字の読み書きの能力が定着できるようにする。(国) ○読み取った情報を適切に表現できるようにする。(国) ○基礎的な計算力を高め、数量の関係を式に表し、正しく答えを求められるようにする。(算)</p> | | | | <p>・教科学習の中だけでなく、日常的に、漢字や語句についての知識や語彙を豊かにする指導や活動を行う。 ・協働的な学習の場を多く設定し、表現力を高める指導を行う。 ・基礎的な計算力や筆算の仕方を正しく身に付けるために、ドリルなどで繰り返し練習を行う。</p> | | | |
| 第5学年 | <p>【成果】 ○国語科では、スタンダードを基にした授業を展開した。江戸川区学力調査の結果から、児童は「聞くこと」の領域で正答率が高かった。算数科では、江戸川区定着度調査と学習カルテを活用し、苦手分野の分析を行い、基礎基本の定着を図った。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科、算数科ともに、応用問題の得点率が低かった。</p> | | | <p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施するとともに、図・数・式を関連付けて考え、問題を解決する力の向上を図る。 ○対話的な学びを取り入れた授業を実践し、考えを伝え合う活動を通して、応用問題にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成を目指す。</p> | | | | <p>○基礎基本の定着を図るため、定着度調査や学習カルテを活用し、児童一人一人の理解度に応じた指導を行う。 ○対話的な学びを取り入れた授業を実践し、児童同士が考えを伝え合う場を意図的に設定する。</p> | | | |
| 第6学年 | <p>【成果】 ○江戸川区学力調査の国語科では、話す・聞く領域の正答率が前年度に比べて10%上がった。 ○算数科では、データの活用領域の正答率が比較的高かった。習熟度別指導における個に応じた課題解決の学習が効果的だったといえる。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語科では、応用問題の正答率が低かった。特に言葉の特徴や使い方の単元、説明的な文章の正答率が低く、課題が見られた。 ○算数科では、記述式の問題の正答率が38%と低かった。分数の計算や円・球の単元で課題が見られた。</p> | | | <p>○言葉の特徴や使い方を確実に身に付け、文章読解や作文に活用できる力を身に付ける。 ○いろいろな角度から図形を見て、共通点や違いに気付けるようになったり、図形を部分に分けたり、組み合わせたりして考える力を伸ばす。 ○根拠を明確にして意見を述べられるようになる。</p> | | | | <p>○よむYOMUワークシートを活用し、文章を要約する活動を取り入れる。また、家庭学習として、言葉の意味調べや新聞の内容に対する意見文を書く自主学習活動を取り入れる。 ○年度当初に、算数科・国語科授業スタンダードを確認する時間を設ける。日常的に、学年間で授業の参観を行い、指導力の向上に努める。 ○ICTを活用し、図形を展開したり、切り取ったり、組み合わせたりする活動を行う。習熟度別の指導を行い、実物を見たり触ったりしながら体験的に学ぶようにする。</p> | | | |